

新聞記者が国家公務員に転職した理由

「転職経験者に聞く！就活のときに〇〇やっておけばよかった」

Q : 前職・現職それぞれの仕事内容を教えてください。

A : 新聞記者 → 国家公務員（今は人事担当）

前職は全国紙の新聞記者です。取材と原稿執筆を主に担当していました。四国、近畿の支局で事件・事故、スポーツ、教育、行政など一通りの分野を経験し、故郷の九州に戻って西部本社の報道部へ。著作権があるので過去の記事をここで紹介することはできませんが、高校野球の甲子園特派員は春夏各1回。皇室の行幸啓の取材も経験しましたし、大小さまざまなニュースに関わりました。キャリアの中で一番長かったのは捜査機関を取材する事件担当です。

※添付している写真は、

G7外相会合の際の広島の平和記念公園と、
阪神大震災の発生から20年を迎えた神戸市の朝です。

現在は国家公務員として、福岡市にある「九州経済産業局」で勤務しています。

当局は経済・産業の発展、鉱物資源やエネルギーの安定・効率的な供給の確保に向け、経済産業省の施策を九州で展開するブロック機関です。プロパー職員のように国家公務員（一般職）の試験を受験したわけではなく（当時37歳、受験できる年齢を

超えていましたし…）、**社会人経験者**

を対象にした選考採用を経て係長

として入省しました。

最初は中小企業支援や商店街振興に取り組む産業部に配属され、中小企業・個人事業主が申請した経営計画を審査・認定する業務などを担当。その後、資源エネルギー環境部で石炭鉱害を扱う部署に異動し、2024年秋からは総務企画部総務課で人事の仕事をしています。新卒の方の採用に加え、私と同じような社会人経験者の選考採用も担当業務です。



Q : 転職のきっかけと現職を選んだ理由を教えてください。

A : コロナ禍と家族の存在

転職の一番大きなきっかけは2020年に始まったコロナ禍でした。当時は北九州市の市政を担当していて、新型コロナウイルス感染症の感染者や濃厚接触者、クラスターが確認された時には市役所などの対応取材し、記事を執筆する日々。目まぐるしい行政の動きを追いながらも一方で、街の様子が変わっていくことが気がかりでした。流行が広がるとマスクなどの生活物資が品切れになり、商店街を出歩く人はまばら、シャッターを閉めて休業する店ばかり…。

市政と前後して経済担当をしていた経験もあり、マスクで汗ばみながら「地域の暮らしを支えるためにできることはないのだろうか」ともやもやとした思いを抱えていました。

もう一つの理由は、妻と子どもたちです。2020年初夏に第2子となる長女が生まれました（当然ながら、感染拡大防止の観点で出産への立会いはNGでした）。当時は長男もまだ2歳を迎えたばかり。全国転勤があり得る仕事なので、もしも転勤・単身赴任となってしまうと家族に大変な思いをさせてしまうのではないかと。コロナの感染拡大で都市間の移動もしにくくなっていましたので、家族で安心して暮らせる環境が整うかどうかは大きな心配になっていました。



九州経済産業局の採用情報を目にしたのはそんな時期のことです。九州の中小企業を支援する仕事に携わることができ、これまでの新聞記者としての経験も多少は活かせるかも知れない。JR博多駅近くの合同庁舎が唯一の勤務場所であり、頻繁な転勤が無いこと（一定期間、自治体などに出向することはあります。）も家族との関係で良い材料でした。実際に入省6年目の現在、自分の業務に取り組みつつも、家族との時間を大事にすることができています。

Q : 就活時にやっておけばよかったと思うことは何ですか？

A : ライフステージの変化、少し意識してもいいのかも

今振り返って「就活時にこれをやっておけば、新卒の時も九州経済産業局を選んだかも」というようなことは…、書きにくいのですが、正直そんなことはありません。新聞記者はそれだけの熱意をもって選んだ私の最初の仕事だったので、たとえ時間を戻したとしても私は新聞記者を選ぶと思います。新聞社での経験、記者として多くの方々と出会えたことは私の財産であり、このキャリアは決して回り道などではありませんでした。

そのうえで就職活動をしている学生の皆さんに伝えられるアドバイスが何かあるとしたら、

ライフステージの変化についてでしょうか？

会社が決めただけの何の縁も無かった地域に転勤するのは、若い私にとってはメリットでした。赴任のたび新しい出会いにワクワクし、「まずはこの地域を好きになろう。ここで暮らす人たちの味方になって、外からの目線で魅力を見つけよう。」とっていました。

しかし、家族ができると状況は変わります。新しい土地に移っていくワクワクよりも、日々成長する子どもたちの姿を見守ることの方が私の中で大きくなりました。年齢を重ねてライフステージが変わり、私の中の優先順位が変わったということです。表現を変えれば、私の人生の主人公は今、2人の子どもに移っていて、私自身は一度脇役になっているのかも知れません。



「将来家族が増えたらこんな働き方をしよう」、あるいは「こんな暮らし

方を大事にしていこう」のようなイメージを早くから意識で

きて、それに対応できるだけのキャリアを計画的に積み重ねていけたら、それはきっとプラスになると思います。

若いときの私はこのライフステージという意識が希薄だったことは確かです。…ですが、決して後悔しているわけではありません。新卒の時の就職も、家族が増えてからの転職も、私にとっては大事な過程でした。

自分の軸は何かを自問自答し、さまざまな業界・企業を集める…就職活動は途方もない作業に思えるかも知れませんが、どうぞ皆さんも後悔のない時間にしてください。



いのうえ

経歴：2021年に社会人経験者選考採用で経済産業省 九州経済産業局へ入省。
2024年秋から総務課で人事を担当。

※キャリアサイト「My CareerStudy」に掲載していた記事を再掲しています。